

## 坂出市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果からの傾向と課題

問1 家族や生活状況について

※傾向…(・) 課題…(○) ポイント=パーセントポイント

頁	結果の概要	傾向と課題
P113	<p>(1) 家族構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回調査時と比較した際に、要支援・要介護認定者におけるひとり暮らしの割合が 7.6 ポイント増加している。</li> </ul>	○ひとり暮らし高齢者に焦点を当てた見守り支援等の拡充
P8	<p>(2) 介護・介助の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「普段の生活における介護・介助の必要性」について、一般高齢者では「必要ない」が 86.0%と大半を占めているが、「何らかの介助は必要だが、現在は受けていない」が 8.1%となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では「何らかの介助を受けている」が 74.7%と最も多く、「何らかの介助は必要だが、現在は受けていない」が 12.9%となっている。</li> </ul>	○市民が必要なときに必要な支援を受けられる体制づくり
P11	<p>(3) 介護・介助が必要となった主な原因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者では、「心臓病」、「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」がともに 16.7%と最も多くなっている。次いで、「その他」14.7%、「関節の病気」13.5%、「糖尿病」12.2%となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では、「認知症」が 27.4%と最も多く、次いで「骨折・転倒」26.8%、「高齢による衰弱」22.1%となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに介護が必要になった原因に「骨折・転倒」が上位となっている。</li> <li>○転倒予防に着目した介護予防事業の強化</li> </ul>
P115	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の調査では、一般高齢者は「骨折・転倒」が 15.4%と最も多く、次いで「心臓病」「関節の病気」がともに 14.3%、「高齢による衰弱」が 13.7%、「糖尿病」8.8%となっている。</li> <li>・前回の調査では、要支援・要介護認定者は、「高齢による衰弱」が 29.0%と最も多く、次いで「骨折・転倒」27.7%、「認知症」25.8%、「脳卒中」18.1%となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者において前回の調査と比較すると、「糖尿病」の増加率が他の原因より大きい。</li> <li>○高齢期以前からの糖尿病予防への取り組み体制の強化（関係課との連携）</li> </ul>

問2 からだを動かすことについて

頁	結果の概要	傾向と課題
<p>P18</p> <p>P119</p>	<p>(1) 運動器の機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者では、運動器の機能についての3つの質問すべてにおいて、「できるし、している」の割合が58.4%~75.1%と最も高くなっている。</li> <li>・一般高齢者では、3つの質問の中でも「階段や手すりを伝わずに昇ることができるし、している」の割合が、58.4%と他の運動に比べて低く、「できない」は17.3%で高い。</li> <li>・前回の調査との比較では、「15分続けて歩くことができるし、している」の割合が一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに7ポイント前後減少している。</li> </ul>	<p>○介護予防における運動器の機能向上や持久力の強化</p>
<p>P19</p> <p>P120</p> <p>P19</p> <p>P121</p>	<p>(2) 転倒について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去1年間における転倒の経験をたずねたところ、一般高齢者では「ない」が67.2%と最も多い。</li> <li>・要支援・要介護認定者では「何度もある」が40.5%と最も高く、「1度ある」が26.5%で、合わせると、67%の人が転倒を経験している。</li> <li>・前回の調査との比較では、一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに転倒経験があると答えた割合が増加している。</li> <li>・転倒に対する不安が大きいかたずねたところ、一般高齢者では「やや不安である」が33.6%、「とても不安である」が13.2%で、転倒への不安がある人が46.8%と約半数をしめている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では、「とても不安である」が61.3%、「やや不安である」が30.4%で転倒への不安がある人は91.7%と大半を占めている。</li> <li>・前回の調査との比較では、一般高齢者で転倒への不安がある割合が2.9ポイント増え、要支援・要介護認定者では8.3ポイント増加している。</li> </ul>	<p>○転倒経験者の増加や転倒への不安に対し、転倒予防を目的とした介護予防事業の強化</p>

頁	結果の概要	傾向と課題
	<p>(3) 閉じこもり傾向について</p>	
P20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間あたりの外出回数についてたずねたところ、一般高齢者では「週に5回以上」が47.6%と最も多く、「ほとんど外出しない」は4.0%となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では「週に2~4回」が40.3%と最も高く、「ほとんど外出しない」は28.7%と次に高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より外出している割合は増加しているが、要支援・要介護認定者に閉じこもり傾向が見られる。</li> <li>・一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに外出を控えている原因として「足腰など痛み」が最も多くなっている。</li> </ul>
P122	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の調査との比較では、一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに外出している割合は増加している。</li> </ul>	<p>○閉じこもりの原因に着目した支援体制の整備</p>
P20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年と比べての外出回数について、一般高齢者では「減っていない」が47.0%と最も高くなっている。要支援・要介護認定者では「減っている」が40.4%と最も高く、「とても減っている」が21.2%で次に高く、合計すると約6割の人が外出の回数が減っている。</li> </ul>	
P123	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の調査との比較では、「昨年と比べて外出が減っている」割合は一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに減少している。</li> </ul>	
P21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出を控えているかについて、一般高齢者では「控えていない」が80.4%と大半を占めており、要支援・要介護認定者では「控えている」が71.8%と7割を超えている。</li> </ul>	
P22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出を控えている理由は一般高齢者では「足腰などの痛み」が最も多く、ついで「外での楽しみがない」「交通手段がない」となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者でも「足腰などの痛み」が最も多く、次いで「トイレの心配(失禁など)」「交通手段がない」となっている。</li> </ul>	

問3 食べることについて

頁	結果の概要	傾向と課題
	(2) 口腔機能について	
P25	・「固いものが食べにくくなった」と回答した人の割合が一般高齢者では31.3%、要支援・要介護認定者では64.7%となっており、「お茶や汁物等でむせる」「口の渇きが気になる」より割合が高くなっている。	○口腔機能（特に咀嚼）の機能向上
P129	・前回の調査と比較すると「できない」割合が微増している。	

問4 毎日の生活について

頁	結果の概要	傾向と課題
	(1) 認知機能について	
P30	・「もの忘れが多いと感じる」と回答した人の割合が、一般高齢者で42.9%となっており、「自分で電話番号を調べてかけることができない」8.1%「今日が何月何日かわからない」23.5%の割合に比べ高くなっている。 ・要支援・要介護認定者では「もの忘れが多いと感じる」77.1%、「自分で電話番号を調べてかけることができない」51.1%「今日が何月何日かわからないときがある」64.3%と一般高齢者に比べ、すべて割合が高くなっている。	○認知症予防
	(2) IADL（手段的日常生活動作）について	
P31	・手段的日常生活動作（移動、買い物、食事の用意、支払い、貯金の出し入れ）について、一般高齢者では「できるし、している」の割合が7割を超えている。	○要支援・要介護認定者への日常生活支援
P32	・要支援・要介護認定者では「できない」が約5～7割を占め、「バスや電車、自家用車などを使って1人で外出できない」が72.3%と高くなっている。	



問5 地域での活動について

頁	結果の概要	傾向と課題
<p>P39</p> <p>P147</p>	<p>(1) 社会参加の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参加の頻度について、一般高齢者では「参加していない」または無回答が半数以上を占めている。「参加している」の回答のうち、町内会・自治会が43.6%、趣味関係のグループが30.1%と多くなっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では、「参加していない」が約6割～7割を占めている。「参加している」の回答のうち、町内会・自治会が10.4%、老人クラブが9.1%と多くなっている。</li> <li>・前回の調査と比較すると、一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに「参加していない」の割合は減少している。</li> </ul>	<p>○社会参加が介護予防につながることへの理解の促進</p>
<p>P45</p> <p>P46</p>	<p>(2) 地域づくりへの参加意向（参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域づくり活動の参加者として参加してみたい」と回答した人の割合は、一般高齢者では「参加してもよい」が50.7%、「ぜひ参加したい」が9.4%で合わせて60.1%となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では「参加したくない」の割合が65.4%と最も高く、「参加者として参加してもよい」の割合が23.3%となっている。</li> <li>・圏域別に見ると、一般高齢者では「是非参加したい」「参加してもよい」の割合が65.5%とD圏域で最も多く、その他の圏域でも約6割を占めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者では社会参加に積極的な傾向がみられる。</li> <li>○要支援・要介護認定者も含めた地域活動参加への体制づくり</li> </ul>



問6 たすけあいについて

頁	結果の概要	傾向と課題
P 49 P 54	<p>(1) たすけあいの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心配事や愚痴を聞いてくれる相手，病気になったら看病してくれる人物について，一般高齢者では「配偶者」が 55.0%，要支援・要介護認定者においては「別居の子ども」が 37.7%と最も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援・要介護認定者においては専門職が相談の受け皿として機能している反面，地域とのつながりが希薄化している傾向が見受けられる。</li> </ul> <p>○一般高齢者に対する相談窓口の普及・啓発</p>
P 57  P 153	<p>(2) 地域の相談窓口の活用状況</p> <p>&lt;家族や友人・知人以外で，何かあったときに相談する相手について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者では「そのような人はいない」が 32.5%であり，次いで「医師・歯科医師・看護師」が 28.3%，「自治会・町内会・老人クラブ」が 15.0%となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では「ケアマネジャー」が 54.8%と最も多く，「医師・歯科医師・看護師」が 25.2%，「そのような人はいない」が 19.2%と続いている。</li> <li>・前回調査と比較して，一般高齢者に大きな変化は無いが，要支援・要介護認定者では「そのような人はいない」が 5.6 ポイント減少し，「ケアマネジャー」が 10.7 ポイント増加している。一方で自治会・社協等の地縁組織への相談は少ない傾向にある。</li> </ul>	<p>○関係機関との連携強化</p> <p>○高齢者が家族以外にも相談できるような地域づくり</p>

問7 健康について

頁	結果の概要	傾向と課題
P66	<p>(3) うつ傾向について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この1ヶ月間、気分の沈みやゆううつな気分になったか」について、一般高齢者では「はい」が36.9%、「いいえ」が59%となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では、「この1ヶ月間、気分の沈みやゆううつな気分になったか」について、「はい」が56.0%と半数を超えている。</li> <li>・「この1ヶ月間、興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか」について、一般高齢者では「はい」が21.7%、「いいえ」が74.3%となっている。</li> <li>・要支援・要介護認定者では「興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか」について、「はい」が52.6%と半数を超えている。</li> </ul>	<p>○うつ傾向にある高齢者の早期発見，早期診断</p>
P70	<p>(6) 現在治療中、後遺症のある病気について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在治療中または後遺症のある病気」について、一般高齢者では「高血圧」が40.9%と最も多く、次いで「目の病気」16.3%、「糖尿病」12.8%、「筋骨格の病気」12.0%となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者，要支援・要介護認定者ともに「高血圧」が多くなっている。</li> </ul> <p>○青年期からの生活習慣病予防（関係課との連携）</p>
P160	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の調査では、一般高齢者では「高血圧」45.4%、「目の病気」20.2%、「筋骨格の病気」15.2%、「高脂血症」13.9%、「糖尿病」13.2%となっている。</li> </ul>	
P70	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援・要介護認定者では、「高血圧」44.0%が最も多く、次いで「筋骨格の病気」26.3%、「認知症」23.9%、「目の病気」22.5%、「心臓病」20.8%となっている。</li> </ul>	
P161	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の調査では、要支援・要介護認定者では、「高血圧」39.0%、「筋骨格の病気」29.9%、「目の病気」25.2%、「認知症」22.8%、「心臓病」21.1%となっている。</li> </ul>	

問 8 介護・福祉サービスについて

頁	結果の概要	傾向と課題
<p>P72 P83 P162 P170</p>	<p>介護予防について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防事業の認知度について、一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに「聞いたことはあるが、内容は良く分からない」が、一般高齢者では 61.6%，要支援・要介護認定者では 44.2%となっている。</li> <li>・「知らなかった」は、一般高齢者が 19.1%，要支援・要介護認定者は 30.3%となっている。</li> <li>・「よく知っていた」は、一般高齢者が 13.2%，要支援・要介護認定者が 18.1%であり、前回と比較すると、一般高齢者においては「知らなかった」が増加している。</li> <li>・また、介護予防の取組みの推進については前回同様「大切だと思う」が最も多く、一般高齢者は 79.7%，要支援・要介護認定者は 76.5%でともに増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防が大切だと感じられている一方で、内容については良く知られていない。</li> </ul> <p>○介護予防の普及・啓発</p>
<p>P78</p>	<p>(4) 地域の高齢者への手助けについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「手助けしたいが余裕がない」が 26.4%，「できる範囲で手助けしたい」が 24.6%，「手助けしたいが、どのようにすればいいのか分からない」が 15.9%，「近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける」が 12.4%となり、全体の約 8 割は手助けしたい気持ちがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人に「手助けしたい」という気持ちはあるが、難しいと感じている人は多い。</li> </ul> <p>○助け合い活動の体制づくり</p> <p>○生活支援と介護予防を通じた地域づくりの取組みの推進</p> <p>○社会参加が介護予防につながることへの理解の促進</p> <p>○生活支援体制整備事業の互助の強化</p> <p>※「互助」…地域の高齢者による支え合いの活動</p>

頁	結果の概要	傾向と課題
<p>P79</p> <p>P93</p>	<p>(5) 高齢化社会において重要な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般高齢者の回答は「健康づくりや介護予防」が58.5%、「地域で支えあう体制の充実」が31.8%、「介護サービスの質の向上」が26.4%の順で回答が多かった。</li> <li>要支援・要介護認定者の回答は「健康づくりや介護予防」が42.0%、「介護サービスの質の向上」39.8%、「介護サービス施設などの量的充実」が32.1%の順で回答が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般高齢者，要支援・要介護認定者ともに介護予防に対する意識が強い。</li> <li>○介護予防事業の普及・啓発</li> <li>一般高齢者の回答で2番目に多かった「地域で支えあう体制の充実」は，高齢者自身の介護予防にも資するため，その強化が必要。</li> <li>○生活支援体制整備事業の推進</li> </ul>
<p>P87</p> <p>P172</p>	<p>(2) 介護サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在利用している介護サービスに満足していない理由は全体的にみると「サービスの回数・量が不十分」が41.5%で，特に要支援1・2は51.5%と多かった。</li> <li>前回調査と比較すると5.3ポイント増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源を活用したケアマネジメント支援</li> </ul>
<p>P76</p> <p>P91</p>	<p>(3) 将来の住まいと介護サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般高齢者では「介護が必要になっても，できる限り，現在の住まいや地域に住み続けたい」が37.6%、「施設に入所したい」が15.7%、「今のところよくわからない」が36.0%となっている。</li> <li>要支援・要介護認定者では「介護が必要になっても，できる限り，現在の住まいや地域に住み続けたい」が68.7%、「施設に入所したい」が10.4%、「よくわからない」9.5%となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要支援・要介護認定者のかたが在宅で継続して生活したいと希望している。</li> <li>ひとり暮らしでは，緊急時の対応面に不安を感じている。</li> <li>○在宅生活を継続するための適切な介護保険サービスの導入</li> <li>○医療，介護サービスを一体的・包括的に提供できる体制づくり</li> <li>○介護家族の負担軽減</li> <li>○地域資源の活用</li> <li>○安全と安心のまちづくりの提供</li> </ul>

P77	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般高齢者の施設入所を希望する主な理由は全体では「家族に迷惑をかけたくない」が45.9%で、続いて「家族による介護が困難であるため」が38.3%となっている。</li> <li>・ひとり暮らしでは「家族に迷惑をかけたくない」が38.3%で、65歳以上の夫婦2人暮らしでは「家族による介護が困難であるため」が47.7%、娘・息子との2世帯では、「家族に迷惑をかけたくないから」が59.5%と高くなっている。</li> </ul>	
P165	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回調査と比較すると、「家族による介護が困難であるため」が4.5ポイント、「家族に迷惑をかけたくない」が0.5ポイント増加している。</li> </ul>	
P92	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援・要介護認定者の施設入所を希望する主な理由は「家族による介護が困難であるため」が30.1%、続いて「家族に迷惑をかけたくない」が24.7%となっている。</li> <li>・ひとり暮らしでは「緊急時の対応面で安心だから」45.0%で、65歳以上の夫婦2人暮らしでは「家族による介護が困難であるため」が42.9%、息子・娘との2世帯では「家族による介護が困難であるため」と「家族に迷惑をかけたくないから」が38.5%となっている。</li> </ul>	
P174	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回調査と比較すると、「緊急時の対応の面で安心だから」が4.7ポイント、「家族に迷惑をかけたくない」が4.4ポイント増加している。</li> </ul>	